

行政事業レビューシート (国土交通省)

予算事業名	生物間相互作用(生態系サイクル)を活用した水質改善に関する検討経費		事業開始年度	平成20年度		作成責任者	
担当部局庁	河川局		担当課室	河川環境課		課長 中嶋 章雅	
会計区分	一般会計		上位政策	良好な水環境・水辺空間の形成・水と緑のネットワークの形成、適正な汚水処理の確保、下水道資源の循環を推進する			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	河川法第1条		関係する計画、通知等	-			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に、3行程度以内)	植物等の自然の浄化力を活用した新たな湖沼の水質改善方法の検討を行い、湖沼の環境保全に資することを目的とする。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	沈水植物(水底に根を張り、水面下で生育する水生植物)を水域に生育させたり、湖沼の外来魚や植物を肥料等として流域内農地で活用するといった水質改善の方法について、それらを実際の湖沼に適用する際の課題の整理等を行う。検討の結果を基に、自然の浄化力を活用した水質改善手法に係る資料をとりまとめる。						
実施状況	平成20年度は、沈水植物を生育させることによる水質改善に関する既往知見を整理し、さらに、既存の実験データに基づいて水質改善の効果を定量的に検証した。また、湖沼の外来魚や植物を肥料等として流域内農地で活用する方法等の水質改善手法について、海外を含めた先進的な事例等の既往知見を収集し、国内湖沼への適用に向けた課題の整理等を行った。 平成21年度は、既存の実験データを元に、沈水植物の生育に必要な光や水深などの条件を整理するとともに、実際の湖沼で沈水植物を生育させて水質改善を行う際の課題とその対応案について検討を行った。また、これらの検討結果や平成20年度の課題整理等を踏まえて学識経験者等から意見聴取を行い、自然の浄化力を活用した水質改善手法に関する資料をとりまとめた。						
予算の状況 (単位:百万円)			19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)		-	11	7		
	執行額		-	10	7		
	執行率		-	93.0%	94.3%		
	総事業費(執行ベース)		-	-	-		
自己点検	支出先・用途の把握水準・状況	・打ち合わせ協議により全体計画、業務の進捗状況等の把握を行い、適正に業務が遂行されているか確認を行っている。 ・業務の主たる部分に係る再委託は禁止されており、主たる部分以外の再委託については、軽微なもの(コピー、印刷、製本、資料の収集・単純な集計、速記録の作成、翻訳等)を除き再委託承諾申請書を提出させることになっており、打ち合わせ協議により、再委託の有無や内容について確認を行っている。					
	見直しの余地	今後においても調査手法等の改善を通じ、効果的・効率的な事業遂行に努める。					
予算監視の効率化							
補記	<p>【予算科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・071 水環境対策費 <ul style="list-style-type: none"> ・05-95 良好な水環境の形成等の推進に必要な経費 (21年度予算額) (21年度決算見込額) ・95016-2129-06 諸謝金 0百万円 - ・95016-2122-08 職員旅費 0百万円 0百万円 ・95016-2122-08 委員等旅費 0百万円 - ・95016-2123-09 水環境対策調査費 7百万円 7百万円 						

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

国土交通省
7百万円

職員旅費
0百万円

湖沼の水質に係る情報収集、自然の浄化力を活用した水質改善に係る企画・立案等



【全国競争】

A. (財)河川環境管理財団
7百万円

沈水植物の再生や湖沼の外來魚等を肥料等として流域内農地で活用するなどの水質改善手法についての検討

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。使途と費目の双方で実情が分かるように記載)

A. (財)河川環境管理財団			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
調査費	新たな湖沼環境管理のための技術手法検討業務	7			
計		7	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0